



# 東陽の旋風 かぜ ～自律協働貢献～

令和6年9月13日（金）No 20 発行  
文責：松本 卓也

## 自主性 主体性 違い ～子どもたちを、「学びの主体」として育てるために～

11日（水）から13日（金）までの3日間、前期期末考査を行いました。これまで、toyo スタディタイム（自ら取り組む家庭学習）や toyo 寺子屋（全員学習会）で学びの定着を図ってきました。朝自習の時間も、友人と問題を出し合ったり、疑問点を尋ねたりと、意欲的に取り組む姿が見られました。「自主性 主体性 違い」・・・この言葉は、8月20日（火）・21日（水）に開催された全九州中学校長研究大会で講演された神野元基さん（宮崎市教育CIO、学校法人東明館中・高等学校 理事長兼校長）の言葉です。



**自主性**・・・法律の遵守や人権の尊重等、既に決められていることを率先して行うこと  
（責任の所在は自分にはない）  
**主体性**・・・やる・やらないも含めて、自分自身で考えて物事に取り組むこと  
（責任の所在は自分）

2016年に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」の中で、日本が目指すべき未来社会として「Society5.0」が提唱されました。原始時代・縄文時代の人間社会を Society1.0（狩猟社会）、弥生から江戸時代の人間社会を Society2.0（農耕社会）、明治から昭和時代の人間社会を Society3.0（工業社会）、平成から現代の人間社会を Society4.0（情報社会）と定義しています。Society3.0（工業社会）では、高品質で均一の商品を大量に作り出す必要があったため、教育で重視されたのは、「知識を正確に記憶する基礎学力、忍耐強さ、あらかじめ定められた計画を着実にこなす正確さ」でした。つまり、決められたことを率先して行う「自主性」が重要とされていました。（本校の校訓にも、「自主」が掲げられています）現在の Society4.0（情報社会）の教育で重視されているのは、「自身自身の文脈で情報を編集し、協働・対話を通じて新しい価値や『納得解』を生み出す力」、2030年に到来するとされる Society5.0（超スマート社会）で重視されていくのは、「より分析的・批判的に思考するための見方・考え方、他者・社会との協働、未知の世界に挑戦する好奇心、苦心してモノを作り上げる力」です。「これからは、自分自身で考えて物事に取り組む『主体性』を育てることが大事です」と、神野さんは力説されました。

3年生の T さんにテストの感想を聞いたところ、「英語が難しかったです。他の教科はまあまあ取れていると思います。」「家庭学習の取組（計画→実践）は上手くいっていることの方が多いです。」と答えてくれました。テスト勉強であれば、「今日は4時間勉強する」「国語と英語は90分、音楽は60分勉強する」「最初に重要語句を見直し、ワークの問題を解く」といった具体的な計画を自分で立てて取り組むことが「主体性」です。テストの結果だけでなく、取組の反省をもとに自ら取り組む家庭学習にしていきたいと思います。



### 秋の味覚！ほくほく栗ご飯！！

地域で栗の生産をされている U 様から、たくさんのお栗をいただきました。早速、地域・学校協働活動サポーターの皆さまが栗の皮むきをしてくださり、6日（金）の給食で「栗ご飯」として提供されました。やさしい甘さとほっくりとした食感・・・、秋の味覚を堪能しました。（^^）「子どもたちにも旬のものを食べさせてあげたい」地域の皆さまの心遣いにも感謝いたします。とても美味しかったです。ご馳走様でした。



### 未来へとどけ ふるさとの舞

「地域に伝承されている伝統文化やそれを継承している人に触れ、受け継がれてきた伝統文化に関心をもつとともに、伝統文化を体験的に学習し、地域に愛着が持てるようにする。」ことを目標として、今年も、「箱石雨乞い踊り」「坂より上棒踊り」「石匠太鼓」に取り組んでいます。先日は、姿勢や基本的な動きについて、地域指導者の方々に教えていただきながら取り組んでまいりました。先人の思いをしっかりと受け止め、引き継いでいきたいと思います。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）